

## 五千人に食べ物を与える

ルカによる福音書 9:11b-17

（そのとき、イエスは群衆に）神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいます。」しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

### 説教

ほんとか嘘かはわからないのですが、日本人は傘好きなんだそうです。その証拠に世界の人たちは日本人ほど傘を持っていないという話を聞いたことがあります。いぜんわたしがお店をやっていたとき、雨の日に傘をささずに来店したお客さんがいました。どうして傘をささないのかと聞いたところ、自分の国（彼はオーストラリア出身）ではたいていの人は傘をささないという答えを聞いて、なるほど日本と世界は違うんだと合点したことがあります。

「自家用車から共同所有＝カーシェアリング」というニュースを耳にしました。道路にはクルマがあふれていますが、住宅街では駐車場に止まったままの車も目に付きます。なんかうまい工夫をして一台の車を複数の人が必要に

応じて不便なく使えるようにしようという試みがあるという記事でした。作る側にとっては生産台数に直接響き、売り上げも落ちるので聞き捨てならない話かと思いきや、大手自動車会社が積極的に生き残りをかけて研究開発しているということでした。傘のはなしをしたのは、傘ぐらい自己所有はやめて共同所有というか、誰でも必要なときに使っていいような仕組みを考えて実現できればいいなと考えたことがあったからです。もちろん自転車もそうならいいのになと思いました。One for all,all for one じゃありませんが、一本の傘はみんなのために、一台の自転車もみんなのために、という感じです。

さて、灰の水曜日から聖霊降臨の主日まで3ヶ月以上にわたって過ごしてきた四旬節・復活節もきょうのキリストの聖体の祝日をもっておしまいになります。きょう朗読した「5つのパンと2匹の魚で5,000人以上の人が満腹した物語」は奇跡物語と呼ばれています。もし自動運転技術と斬新なカーシェアリングシステムが完成すれば、5台の自転車と2台のクルマで5000家族がなに不自由なく移動できるかもしれません。将来この仕組みが実現するとしたらいまのわたしたちからすれば奇跡物語のように思えます。

**そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ」**イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。ルカ4:3-4

イエスは宣教活動を開始するに当たって悪魔の誘惑を受けました。三つの誘惑のうちの一つがこれです。いわずもがなですが5000人のパンの奇跡ではイエスは石をパンに変えたとは証言されていません。

**すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。そし**

**て、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。**ルカ 9:16-17

イエスが賛美と祈りを唱えてパンを裂いて弟子たちに渡したことによってパンは増えたと記録されています。けっして石からパンを造りだしたわけではない、イエスは悪魔の誘惑には乗らなかった、つまり、この奇跡は悪魔の望む奇跡ではなかったのだと理解できます。イエスは悪魔の誘惑に負けない、そんなあたりまえのことをいうなと叱られそうですが石がパンに変わったわけではない、賛美と祈りをもってイエスが裂くパンが弟子たちの配膳によってすべての人を満腹させたということです。でね、わたしが気になるのは石をパンに変える技術というものがあって、わたしたちはそれを奇跡と賞賛し、ありがたがっているのではないか、ということです。もっと言ってしまえば、信仰もなにか技術のようなもので、それは石をパンに変えること、だと信じてしまっただけではないかということです。

まえにも話したことがあります、わたしの叔母は目が悪く、いまではほとんど見えません。でもかかりつけの医者は冗談半分に京都の大学の先生のところに行けば見えるようになるよといいます。万能細胞で角膜移植するという治療法のことをいっているようですが、叔母は即座に断ったといいます。もし、わたしが叔母にイエスさまが泥を目に塗ったら見えるようになるかも、といっても叔母は No というだろうな。（余談ですが中国では豚の角膜を人間に移植する技術が開発されているというテレビニュースを見ました）

イエスがこの人たちに食べ物を与えなさいといったら、弟子たちは言い訳をはじめます。パンを買いにいかなければ、買うお金がなければ、パン屋が開いていなければ……。ほんとうに理屈と膏薬はどこへでもつきます。あるときイエスは隣人とは誰かと問い質すファリサイ人にたとえ話をされました。追いはぎに襲われて瀕死の重傷をおった旅人を助けるサマリア人のたとえ話です。（ルカ 10:25-37）これは困っている人がいたら見て見ぬ振りをするので

はなく助けるのだ、という教えでした。腹をすかせている人がいたら満腹してもらおう、単純に考えるとあたりまえの話になります。ただイエスのとられた方法が常人離れしたやり方でした。

石をパンに変えているのか、それともイエスが裂くパンが人々を満腹させるのかをギリギリのところまで考えてみると、見分けることはやさしいことではありません。だとすれば、わたしたちが聖餐式でいただくキリストのからだのパンも受け止め方しだいで石からのものになったり、天からのものになったりするでしょう。

一人ひとりがこころ穏やかにキリストの聖体を受け取ることができますように。

-----